

## 論文内容要旨

### Sentinel Lymph Node Biopsy After Neoadjuvant Chemotherapy in Patients With an Initial Diagnosis of Cytology-Proven Lymph Node-Positive Breast Cancer.

(腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の検討)

Clinical Breast Cancer Vol. 16, No. 4, 299-304

外科系 外科学 (乳腺外科学分野) 専攻 (昭和大学江東豊洲病院)

榎戸克年

【背景】腋窩リンパ節転移の有無を確認するために、以前はリンパ節郭清が行われていたが、現在は臨床的に腋窩リンパ節転移陰性乳癌に対してはセンチネルリンパ節生検 (SNB) が標準治療である。

乳癌の術前化学療法 (NAC) 後の SNB は、同定率の低下や非センチネルリンパ節に転移が残存 (偽陰性) している可能性が指摘されている。そのため腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する NAC 後は、リンパ節郭清が標準治療である。しかし近年は大規模臨床試験の解析から、NAC により約 40% の症例でリンパ節転移が陰転化することが報告されている。このような症例では腋窩リンパ節郭清が不要であり、SNB でリンパ節の評価が可能と考えられる。

【目的】腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対して、NAC 後に SNB を行い、偽陰性率 (センチネルリンパ節転移陰性かつ非センチネルリンパ節に転移を認めた症例の割合) およびセンチネルリンパ節の同定率を検証した。

【方法】2011 年 9 月～2013 年 4 月国内 8 施設で前向き多施設共同臨床試験が行われた。細胞診で腋窩リンパ節転移が証明された原発性乳癌 (T1-3, N1, M0) に対して術前化学療法を行い、画像上リンパ節転移が陰転化した症例を対象とした。手術は全例に SNB および腋窩リンパ節郭清を施行した。

【結果】143 例が登録され、全例が浸潤性乳管癌、平均腫瘍径は 34mm であった。バイオマーカーをもとにした臨床的サブタイプ分類ではエストロゲンレセプター (ER) 陽性/HER2 陰性 (Luminal type) 50 例、ER 陽性/HER2 陽性 (Luminal-HER2 type) 25 例、ER 陰性/HER2 陽性 39 例 (HER2-enriched)、ER 陰性/HER2 陰性 (Triple Negative breast cancer (TNBC)) 29 例であった。リンパ節の病理学的完全奏率は 52.4% (75/143) であった。

センチネルリンパ節の同定は130例で可能であった(同定率90.9%)。サブタイプ別の解析では; Luminal type 90.0%(45/50)、Luminal-HER2 type 92.0%(23/25)、HER2-enriched 93.1%(27/29)、TNBC 89.7%(37/39)であった。

偽陰性率は16.0%(13/81)であった; Luminal type 42.1%(8/19)、Luminal-HER2 type 16.7% (2/12)、HER2-enriched 3.2%(1/31)、TNBC 10.5%(2/19)。Luminal typeの偽陰性率は、他のサブタイプと比較し有意に高かった(odds ratio 8.29, 95% confidence interval 2.28-30.13)。

**【結語】** NAC後のSNBは、臨床的サブタイプを考慮し、Luminal type以外で可能であると考えられる。